

米国金融政策（2024年3月FOMC）

政策金利を5会合連続で据え置き

2024年3月21日

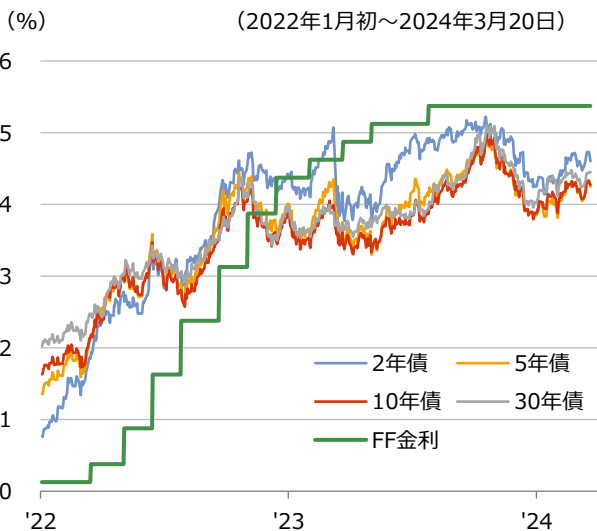
FOMCは年内3回の利下げ想定を維持、当面はデータの見極めに

FRB（米国連邦準備制度理事会）は3月19～20日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは5会合連続です。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を当面は計画通り実施していくことも再確認しました。

声明文にほとんど変化はありません。「政策金利に対するいかなる調整を検討するに際して」も、今後のデータや見通しの進展、リスク・バランスを「精査していく」とされたほか、持続的な2%インフレ目標の実現に確信を深めるまで、「利下げは適切と思わない」と引き続き記されました。他方、今回公表されたFOMC参加者のFF金利見通しは中央値で年内3回（1回の利下げ幅を0.25%ポイントと想定）の利下げが維持され、パウエルFRB議長は「年内のある時点で利下げを開始することが適切」と述べました。

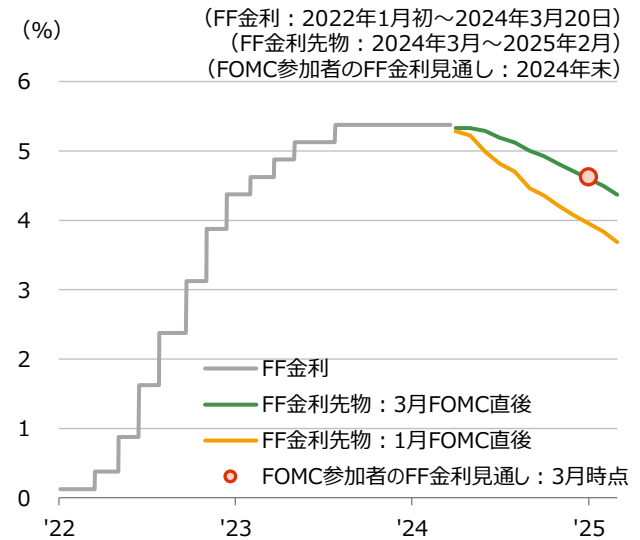
市場では利下げ開始先送り懸念が高まりつつあったため、今回の決定を受けて金利は短期を中心に低下しました。FF金利先物では6月の利下げ開始が7割強織り込まれています。しかし、実際に利下げが実施されるかは当面の雇用・物価指標を中心とするデータ次第であり流動的です。そのほか、パウエル議長は保有資産の縮小ペースの減速は「かなり早期の開始が適切」と発言しました。次回5月FOMCで、保有資産の縮小に関する何らかの発表が行われる可能性が高いと考えられます。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。